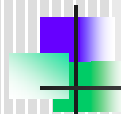




ビジネス・イノベーション研究部会活動紹介 ～ 2008、2009年度に向けて～

2008.6.4

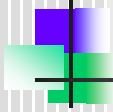
ビジネス・イノベーション研究部会
日本ユニシス 牧野 友紀



活動目的



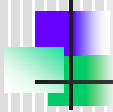
- 当部会では、XML、Webサービス、SOA、Web2.0など技術が関連するビジネス・イノベーションを対象に、変革のプロセス、XML関連技術の効果など調査研究を行う。



活動内容



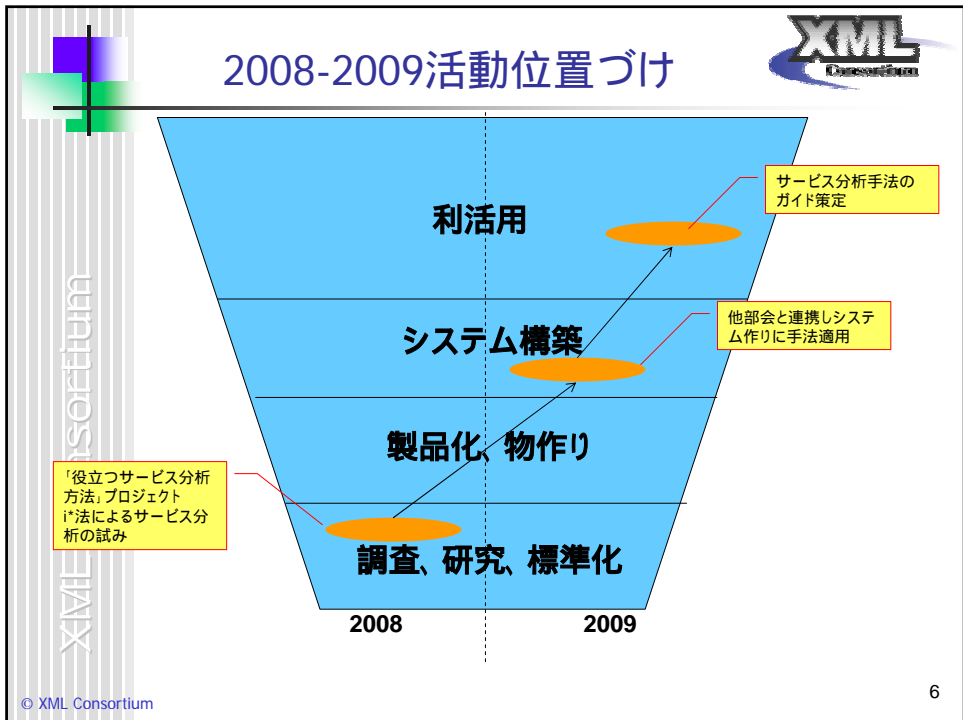
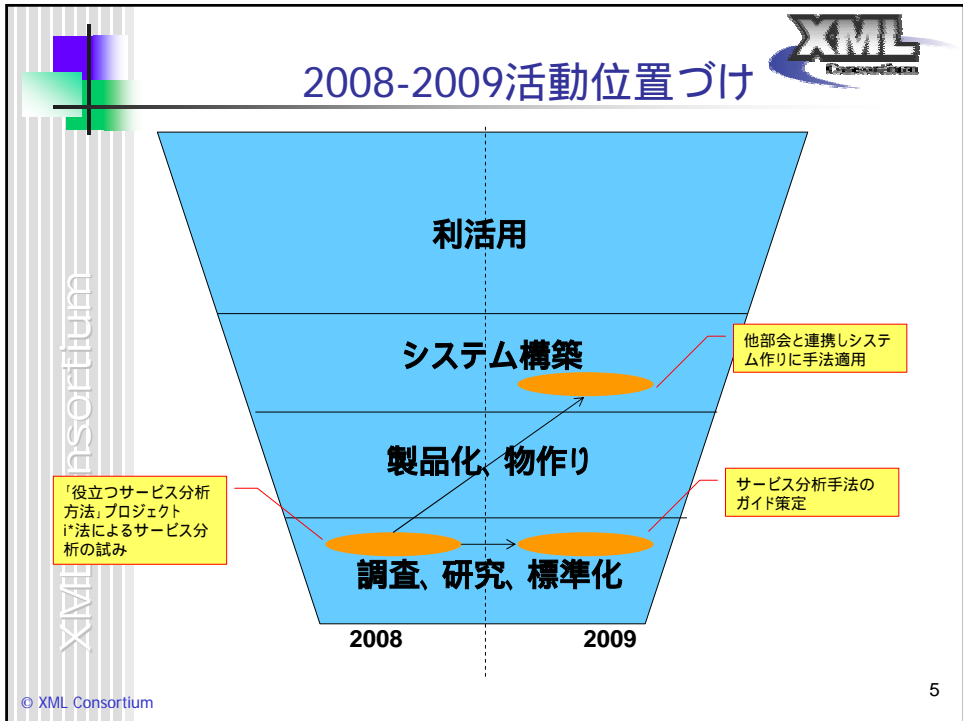
- ビジネスの目標や計画を反映し業務とITを関連づける方法
 - ビジネスモデル定義方法、ビジネスプロセス・モデリング手法の研究
 - ビジネスアーキテクチャとシステムアーキテクチャの関連付け方法の研究
- エンドユーザ主導の情報活用の形態と必要な技術の研究

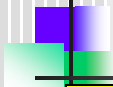


2008年の重点施策



- 「役立つサービス分析法」プロジェクトの実施
 - 企業内でのSOAの浸透、SaaSビジネスが台頭する状況において、長期間、多くの利用者に使われる付加価値の高いサービスを作ることが重要な課題となる。活動ゴール指向分析手法の一つであるi*法を活用し、利用者の目的に合致したサービスの同定方法を検討する。2007年度に開始した「役立つサービス分析方法」プロジェクトを継続し、仮説手法の検証と従来手法との位置づけを明確にする。





ビジネスイノベーション研究部会 2008～2009年度活動計画案		フェーズ
2008年度	「役立つサービス分析方法」プロジェクト手法によるサービス分析の試み 業務シナリオに基づくモデル作成によるサービス分析の仮説検証 ビジネスプロセス分析手法との比較による評価と補完関係の明確化 サービス分析手法の取りまとめ	1
2009年度上期	他部会と連携しシステム作りに手法適用 ・対象システムの選定 ・サービス分析の実践 ・実装を担当する他部会からのフィードバック取得 ・サービス分析手法の見直し	3
2009年度下期	サービス分析手法のガイド策定 ・ガイドの執筆 ・ガイドのレビュー ・ガイドの公開	4